



2006. 8  
No. 6

特定非営利活動法人C. P. I 教育文化交流推進委員会  
発行所 : C. P. I. スリランカ事務所  
Mahindarama, Road, Etul-Kotte, Kotte, Sri Lanka  
日本本部 : 東京都三鷹市中原2-16-9  
Tel. 0422-49-3808  
E-mail : cpimate@gmail.com

## 2006年度「奨学生認証式」

# 希望に満ちた瞳、感謝あふれる笑顔、笑顔、笑顔

### 20周年記念式典開催

2006年2月10日、SNECC コーチセンターで、政府関係者、C. P. I. をはじめとした協力団体関係者が参列して、記念奨学生認定式が行われました。今年は、ちょうど20年の節目の年に当たります。

これまでに、6100人の子どもたちに、支援をしてきました。最初の里子は32歳になります。卒業里子は、先生やアナウンサー、公務員、実業家など社会で活躍しています。

教育里子には、一年間に使用する学用品が授与され補修クラス費用、図書支援費、特に成績がよくて下宿の必要な女子高生への特別支援などを行っています。



授与される学用品



奨学生1500人と彼等の父母、兄弟の人たちで会場は5000人以上にふくれあがった。



里子の代表に学用品の授与をする大山理事。式典後に各里子は学用品の入ったザックを大事に背負ってバスに乗り込んだ。

### ご寄付についてのお願い

C. P. I. はSNECCと協力して、里子への教育支援の充実を図りたいと考えております。

加えて、子どもたちの精神面のケアと、自立に向けての指導などに力を注いでおります。

近年の会員の減少により、こうした活動費が不足しております。

「会員の増強」並びに「ご寄付」に、より一層のお力添いをいただきますよう、お願い申し上げます。

入会、ご寄付申し込みは、本部にご連絡ください。

電話又はFAX:0422-49-3808

### C.P.I.本部からのお願いです。

E-mail: cpimate@gmail.com

## 認証式に参加して

### 幸せと感動で胸がいっぱいです

K・ミヒリダヌシカ(No. 4337、女)

2006年2月10日コッテセンターで行われた奨学生認証式参加しました。私は2001年から奨学金をもらっています。

コッテセンターで行われている認証式には、今回で3回目です。その中でも今回の20周年セレモニーは特別なセレモニーでした。

この日の午後1時には、制服を着た友人の奨学生



でいっぱいになりました。多くの地域センター長のお坊さんと両親もこの機会に参加しました。

シンハラ、タミール、モスリム人など色々な宗教の人たちが同じ舞台に集まって一緒に参加したのはすばらしいことです。



仏陀への感謝と誓いをささげる里子たち

北部タミール人テロリストと政府との戦いが、また始まろうとしています。でも、ここでは皆幸せです。みんな笑顔でセレモニーに参加しました。私が感激したもうひとつは、私たちが奨学金をもらっている日本人里親さんがセレモニーに参加してくださったことです。それはとても嬉しいことです。

私たちの生活状況を知る事により、援助をして下さっている里親さんに私たちのことを理解していただけることがうれしいのです。里親さんに心から感謝いたします。

そしてコッテセンターのみなさんや各センターのお坊さんが、私たちを応援してくださっていることを申し上げたいと思います。

### 支援を受けている自分は幸せです。一生懸命頑張ります

タリンドウ(No. 3676. 男)

奨学生認証式は広いコッテ・センターのグランドにテントを張って行われました。

お父さんやお母さんと一緒に参加している人もいます。グランドには何人いるか分かりませんが、多分4000人くらいいたと思います。

お客様にはお坊さん、政府の人、そして日本の方々をはじめとした外国の皆さんがたくさんいました。

今回の奨学金認証式にスリランカの北や東の遠い地方の学生たちや津波で被害を受けた子どもたちも参加しました。戦争や災害で幸せが崩されるのは悲しいことです。私は幸せだと思いました。しかし、その人たちに私たちは何もできません。日本のCPIや他の方たちが、私たちを助けてくれています。チャンダシリお坊さんは「貧しくても勉強を頑



張る学生たちを選んだ」といいました。

一生懸命勉強して、チャンダシリお坊さんや日本の里親さんに喜んでもらいたいと思いました。

日本の里親さんから学用品を直接手渡してもらい、頑張ろうと思いました。

## 古都ポロンナルワ 修学旅行記

## 古の都 今に残る 偉大なスリランカ



タマーリ No. 5546(女)

ウダガマセンター(No. 2)

## 1000年も前の技術が今の世を救っています

私はウダガマセンターの15歳、10年生の奨学生です。私たちは、センターのみんなとバスに乗って、昔の古都、ポロンナルワを見るために、朝早くウダガマセンターを出ました。

私たちは現地についてまず、考古学の案内人からポロンナルワの歴史について教えてもらいました。

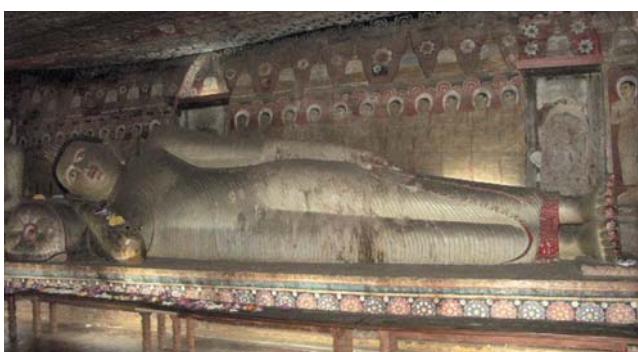
ポロンナルワは10～12世紀の間にシンハラ王朝の首都があつたところです。ヴィジャヤバーフ一世とその子孫は灌漑用貯水池や多くの建築物を建築し、ポロンナルワを仏教都市に拡張しました。そしてタイや



石仏: ガル・ヴィハーラ(4.6m)

## 日本の歴史を勉強したい

その後、パラクン王が建てた建築物を見て古い町、ダンブッラに行きました。そこで絵画の事を勉強した後、大きな岩山をくりぬいて造られた石窟寺院を見学しました。14メートルもある涅槃物(写真下)が洞窟の壁と同じ自然石で造られていることを知って驚きました。5つの洞窟にいろいろな壁画や沢山の仏像が安置されていて、私たちに感動を与えました。



700年もジャングルに眠っていたダーガボ:キリ・ヴィハーラビルマから多くの仏教僧がこの町を訪れるようになりました。

ここには歴代の王様の時代に作られた様々な貯水池や井戸があります。そして、歴史的な建築物や、王様たちが行った大規模農業の後も見ました。今も立派に使われているのに驚きました。

また、仏様の親切を表現する色々な構造物(石像)も見ました。高さが15メートルもある石像に、思わずひざまずきたくなります。

私たちは、大きなパラクシサムドゥラという湖の隣で昼食を取りました。向こう岸が見えないくらい広く、みなみと満たされた水は、今でも広大な水田に水を供給しています。



石窟寺院

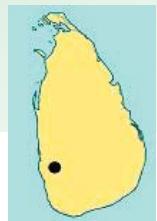
私たちはスリランカの古い時代を勉強できてとても楽しかったです。

私たちは、バスで旅行することは余りありません。C.P.I. の奨学生ばかりと一緒に学習旅行が出来ることはとても幸せです。教室で習わないことを沢山学習できます。他の学校の奨学生とも友達になりました。自分がすごく大きくなつたように思います。

そして、日本にはもっとすごくきれいな城やお寺があるだろうと想像しました。いつか行ける時がくるだろうか、行けるといいな、と祈りました。そして、日本の歴史も勉強したいと思いました。

## 《ホラナ地方の稻作について》

## 今も続く伝統の稻作…スリランカの知恵



Chulani dasantha kalubowila (No. 4040)

14G(20歳)

私たちの国、スリランカは農業の国です。紅茶は輸出用に重要ですが、稻作はスリランカ人の台所を支えるのにとっても重要です。米は収穫した後に納屋に入れて保存します。昔、スリランカはお米の倉庫と呼ばっていました。とても豊かな国でした。現在は1年に2回(だいたい2月と8月)収穫します。

(1)池とは農業するために必要なもの(2)お寺は私たちの文化(3)パゴダ(仏塔)は豊かさのシンボル、この3つが私たちスリランカ人の生活を守っています。

## 殺虫剤は木の葉から自分で作ります

水の中にお米を入れて3日間漬けます。この水を取ってお米をそのまま鍋の中に置いておくと米粒から根が出てきます。これが苗になります。



植える前に田んぼを「ポール」という道具でならします。一つ一つの苗を田んぼに植えていく方法がありますが、スリランカでは苗を適当に投げて植える方法が多いです。

植えたあと2週間ぐらいしてから田んぼに薬を入れて虫を殺します。

## 収穫は最大のよろこび。感謝をこめて刈入れます

私たちのように米を作っている者にとって、稻の穂が大きくなってくるのを見るうれしくて、もう言葉にできません。収穫のときは詩を作り歌いながら仕事をします。収穫する際に、その田んぼの持ち主は収穫の作業をしません。まわりでいっしょに生活している他の農家の人たちが作業をします。その田んぼの持ち主は作業をしている人のために紅茶やご飯を作ります。また、作業をしている人のためにミルクライスなどの差し入れをします。これを「アンブッラ」と呼んで特別な感謝の気持ちを込めます。



スリランカの案山子(かかし)です。(日本では逆さにして頭は古い鍋を使うことが多い。) 吊り下げますね。

作画:Pradeep Kumara



雑草が目立つが、たわわに実った稲穂



家族と一緒にチュラニーさん(中央)

薬は「コホンバ」という葉っぱをつぶして水と混ぜて作ります。これを稻に塗っていきます。方法は、田んぼの周りを囲んでいるあぜ道に一人、その反対側にもう一人立ちます。その二人が長い薬の塗られた布の端を互いに持ちます。そしてあぜ道を行ったり来たりして、稻にかぶせるように布に付いた薬を塗ります。これで虫が寄ってきません。

時々薬を入れて草をとります。昔は一つ一つ草を抜いていました。また「かかし」を作って鳥が来ないようにします。今作っている米の名前はBW-300とBG-400です。

もみすりをする場合、現在は機械を使いますが以前は牛を使っていました。方法は、大きな臼に穀殻が付いたままの米を入れて、その臼に取り付けた棒の先と牛の背中を結びます。そして牛は臼の周りを歩きます。こうして臼が回転して白い精米が出てきます。この時期は村のみんなが嬉しくなる時です。

できた新米は先にお寺や神社にお供え物としても行って行きます。その後、家族や親戚で食べます。

私たちにとって農業はかけがえのないものです。私たちはこの村を愛しています。



## 里子レポート 私の町、僕の村2

23年間の大工事、現代の生活を守る

# アンパーラ地方の農地開発と村民の安全を守るダム



サッダシッサ学校の11年生の里子たち:  
ディネージ(男)、ドゥミドゥ(男)  
シャムニ(女)、カンチャナ(女)

1933年ごろから「イギニヤーガラ」という地域にダムの開発が始まりました。

1945年にセーナナーヤカ農林水産大臣は、開発計画を大規模なものに変更しました。23年間の年月を掛けたダムの大工事は、1956年に完成しました。

建設当時は水を貯めておくので、マラリアを心配する人が多かったが、今、スリランカ人は「彼は良くやった。未来の事を考えてすばらしい決断をした」と言っています。

設費用は当時(1930年)のお金で2億円ほどかかりました。このお金は全てスリランカで用意して

## シンハラ人とタミール人が仲良く暮らす農業中心の町です。

長い間、戦争やゲリラが多いときもあって、とても悲しかったです。最近は観光の人が来るようになりました。2004年の暮れにアンパーラに近い沿岸部の町カルモネは津波で大きな被害を受けました。沿岸部の漁業で生活している人は収入が少なく、復興するのに時間がかかるでしょう。

この地域は農業で生活している人がとても多いです。特にムスリム(人)が多い地域です。人口湖ができる前は、シンハラ人は少なかったです。

難しい問題もありますが、みんなで仲良くしています。私にはタミール人の友だちがいます。でも仲良く、いっしょにクリケットして遊びます。

アンパーラは、農業中心の町で貧乏な人が多いです。特産物は、野菜と「さとうきび」です。稻作も盛んですが、この地方独特の「サッカラ」というお米が栽培されています。このお米は生育が遅く、

## 森から象が出てきます

時々森の象が町に出没して、道路を歩いています。象が怒ったときは家を壊したり、田畠を荒らしたりもします。子どもがいる象には特に注意が必要です。アンパーラには、仏教遺跡が多いので、もっと観光客がきてくれるといいと思います。



作り、外国からの借金なしで、アメリカの会社に頼んで建設しました。当時としては正に一大事業でした。このダムが完成後に約4万世帯(約20万人)が生活する計画がありました。飲料水を確保、水力発電\*、農業用水など目的は沢山ありましたが、大きな特徴は、このダムの下に4つの小さな人工湖があることです。それは突然の大雨でダムの水が満杯になっても下の小さな人工湖に流れるようにシステムになっているのです。

(\*)スリランカにまだ原子力発電所はありません。

## アンパーラについて話し合う里子たち

収量が少ないのですが、とても美味しいお米です。自分の家で食べる分だけ作る農家が多いようです。



(注)アンパーラについてはヘゴダ学校の校長先生にもお聞きしました

初代総理大臣:セーナナーヤカ(1884.10~1952.3)

イギリスの政策で、シンハラ人による政治、独立への転換の魁として、1936年に農林水産大臣に、1948年に独立し、初代総理大臣となった。

ニッタンブワの近く、ミーリガマ村のボータレーという家で生まれた。アンパーラの町の近く、ガルロヤエリアに「セーナナーヤカ」というダムと人口湖を作って地域の発展に貢献した。ダム建設のために家や土地が亡くなる人もいましたが、代替の田んぼと家をあげた。ダムの完成にともない、多くの人が移り住むようになりました。

総理大臣として、国政に活躍しましたが、1952年に彼は趣味の乗馬をしている時に、落馬して命を落としたということです。

## 国内最大の水揚げ港・ニゴンボ

## 辛い仕事、でも楽しい



ニゴンボの漁港でひろった  
働く人の声を伝えましょう。

ニゴンボには、小さな市場が60くらい、大きな市場が20くらいあります。スリランカでは 一番大きい漁港です。そして、水揚げ時の買値も高いです。外国人もよく買いにきます。



ニゴンボの子どもたちは、漁業の仕事をよく手伝います。地引網を引き上げる仕事(写真右上)は男の子どもの重要な仕事です、

私は7年生13歳ー

日曜学校が終わった後、2時ごろから、ここに来て働きます。

私の仕事は、この魚は洗った後乾かします。雨の日でも別の仕事があります。とても体が痛い。でも魚を切る仕事は楽しいです。

私?56歳、いつもここで働いているよ。魚があがるのは朝の11時。腰が痛いし、手を傷める危ない魚もいる。小さい魚を全部切るのは一山100ルピーー。大きい魚は一山150ルピーです。だいたい1日2回、魚の水揚げがあります。稼ぎは1日で500ルピーぐらい。最近物価が高いので、1日400ルピーは要る。生活が苦しい。



体を休めるのは寝るときだけ。

子どもは4人、一番上は35歳、一番下は24歳です。家族みんなで集まる時間は少しだけ。

時々夜に、みんな集まることがあります。

子どもには将来、いい仕事についてほしいので昼は学校、夕方は塾、日曜学校には行かせます。もう少しの辛抱だと思っています。



(少し酒に酔っている?漁師)

ワシの仕事は船乗だ。毎日沖に出ている。沖の仕事よりも女人の方がやっている小さな仕事のほうが大変だ。毎日とても暑く、体が疲れる。



酒?結構飲むね。飲まずにいられないヨ。

朝5時に飲んで体に力を与えるんだ。それから海にでるんだヨ。

沖に出て働く若い者も結構いるよ。若いので18歳くらいかな。

津波のとき?6フィートくらいまで来た。突然だったので怖さを感じるひまがなかった。必死で逃げたからね。

家?完全に流された。まだ建っていない。政府には津波で壊れた家を建てるように言いたい。(訴えるような目つきが怖かった)

スリランカ事務所駐在員 工藤光記



地面一杯に広げた干し魚

## 楽しく、平和な村

## ウダガマ・バードゥッカ・センターのある村



ディルクシ No. 3677(女)



数多いSNECCのセンターの中でも、ウダガマ・バードゥッカ・センター(No. 2)には特徴があります。センターは「ツリテエガンティラカーラーマヤ」というお寺です。

ウダガマはスリランカの日本奨学生のプロジェクトを始めるために頑張ったスマンガラお坊さんの生まれた村です。ウダガマは私たち奨学生にとって特別なところです。

ウダガマはコロンボ地方に位置していて、コロンボの東、約30kmのところにある、小さな村です。この村に住んでいる人たちも少ないです。

ウダガマ村の隣のカダナピティヤとウグルラーナという村もウダガマセンターに含まれます。このセンターには、奨学生は23人います。みんな優秀で、学校の中で良い成績を取っています。生徒会の役員をしている人もいます。

ウダガマは自然がきれいなところで、生活するのがとても楽しいです。高級な建物や設備はありませんが、生活でもっとも必要な電気と電話がありますし、学校もスーパーマーケットも郵便局も店もあります。

村に便利さは少ないですが、自然環境が豊かなこの村の人たちの生活は快適です。またきれいな川も

あります。

「マーワカオワ」という川が流れ出すのはこの村からです。小さい小川の源流を探ると滝があります。

それはとてもきれいな景色です。よく隣の村から人々がこの景色を見に来ます。

森林から湧き出る泉のお陰で水が豊富にあります。この村では主にお米、紅茶、ゴム、ココナッツ、シナモン、香辛料を栽培します。特殊な薬草も見られます。ワタコル、ダバラ、バンジョー、マカラッなどの野菜やマンゴー、パパイヤ、バナナ、ヴェラル、りんご、ペーラ、アリペラ、などの果物もあります。この村はとても豊かです。

自然環境がきれいなこの村には、すばらしい医者、弁護士、教授、お坊さんがいてとても助かります。ウダガマの人たちは周りの村の人たちといっしょに楽しく平和に生活しています。私たちは、みんなで美しい自然を守っています。

小さいが、村のあちこちに紅茶畑がある。

紅茶畑は田んぼや畑と混在している。



友人たちと紅茶の葉を摘む。  
中央がディルクシさん

## 調べてみましょう！ スリランカのプロフィール

例えば…

- ①人口は?(19,007千人)
- ②女性は何パーセント?(50.5%)
- ③交通事故の死者は何人(2,023人)
- ④私立学校の数は?(79校)
- ⑤全就学生徒数?(4,252千人)
- ⑥教員数は?(193千人)
- ⑦警察官の人数は?(33,540人)
- ⑧正規軍の人数は?(79316人)などなど、
- ジャンル別にデータが整理されています。スリランカの研究に役立たせてください。

スリランカの国勢を知ることは大切なことですが、なかなか正確には報道されていません。

CPJの創設に寄与され、現会員であり、評議員である日下大器氏が主宰されている「くさか研究所」が、スリランカ政府が発表しているデータを基に、色々なジャンルのデータを整理されています。

データはインターネットで無料でご覧になれます。そこには今まで知らなかった「スリランカ」を発見することができます。下記のアドレスにアクセスしてみて下さい。

<http://www.jpp.co.jp/srilankakey/>



## スリランカ 現地事務所から

スリランカの多くの学校の黒板はツルツル。先生は、力をこめてチヨークを使うので肩をこわす人が多いようだ。黒板塗料の代りに、バナナの茎を塗ったり、有害な古い乾電池の中の粉を塗ったりしているという。これは、健康に悪い。「どうしたらいいのか…」との声がある。

私たちは教育里子たちが学習環境を良くしたいと頑張る気持ちに応えるために活動しているのだから、支援の方法を、彼らからの要望に呼応する形にしたい。

教育支援として、何をすべきかを議論した「はじめの一歩」に立ち戻る勇気が、いま、試されているのではないだろうか。



里子の報告を映像でご覧になれます

[www.cpi-mate.gr.jp/education-support.htm](http://www.cpi-mate.gr.jp/education-support.htm)

みなさん、このホームページを開いてください。

教育里子の生活や学校の様子を映像でご覧戴けます。

ご友人にも知らせてあげてくださいね。

## 子どもたち自身が考えたことに呼応して活動すると

(1)地域アシスタントは、  
子どもたちと集会を開く

(2)子どもたち自身が  
真剣に何が学習に  
必要か考える

(3)各地から提案を持寄る

(4)地域アシスタントは  
調査・立案・実行に参加する



(6)子どもたちも  
行動する

(5)成果は、  
子どもたちの  
もの

●卒業生による地域アシスタントのリーダーシップが、「芯」となることを期待したい。

子どもたちに聞きたいことは、たくさんあります。

- 自分の変化を知ったのは、どんなとき？
- 変えてみたい学習環境は、どんなこと？
- 大人の協力を求めたいのは、どんなこと？
- 助けてもらいたいのは、どんなとき？
- 教育里親に自分らしく感謝を表すには、  
どうしたらいい？

スリランカでの若い活動を  
知ってもらうには？

- 地域アシスタントによる、日本での報告会を。
- 若い力の成果を、現地メディアに掲載を。

日本の活力づくりに、こんなことが  
できるのでは？

- 気持ちは若々しい人々へ、もっと発信を。
- スリランカで、日本の若者との交流を。



駐在の工藤光記の努力で、ネゴンボのピュミさん、  
ウダガマのガムラス君、ホーラーナのウーシャさん、  
コッテのニルーパ君とサミッタ君が、  
地域アシスタントになりました。

もっと喜ばしき『おどろき』が生まれるのでは…